

弔 辞

駒沢大学總長 櫻 井 秀 雄

前田先生!! この度の御不幸、心からお悔み申し上げます。

春とはいえ、寒さ消え去らぬ昨今、昭和五十八年度、駒沢大学の卒業式が、この三月二十五日に執り行われ、無事終了いたしました。そのホットしていた矢先き、突然の先生の訃報に接し、あるいは誤報ならんことも願いましたが、まことに驚愕おくあたわざる出来ごとに、ただく無念の涙を禁じえません。

先生は、卒業式当日、早朝より式典の台上に位置され、多くの卒業生たちに、よろこびの温顔を終始むけられ、ともに祝福していただきました。さらにその日の午後には、歴史学科卒業生と教員各位との惜別の宴席上、先生は、懇々と慈愛あふれる御訓辞を示され、卒業のお祝いと、先生の御経験から人生に対する「心の持ち方」を示され、卒業生一同を激励されたところとを、もれうけたまわりました。そのよろこびも、いまはつかの間、今回の不幸な事故に、先生は遭遇されたのであります。

想いおこしますに、先生は、本学教授として赴任されてより、すでに七年!! この間、御研究は、『平城の歴史地理学的研究』の大著を発表され、学界に多大の裨益をされました。また学生への御教授には、懇切丁寧をきわめ、その温厚なお人柄は、ともに多くの学生に慕われてまいりました。本学の教祖、道元禪師は、「学道の人、すべからず貧なるべし」と、諭されましたが、先生も、まことに無欲にして、学道に接してこられました。本学のこんごの発展に、なくてはならぬ教授の一人でもあられました。

人生の儚いことは熟知しているつもりではありますが、これから御活躍を願うという秋に御他界!! まことに惜しみてもあまりある人材を失ってしまいました。先生の御親族の方々は、いうに及ばず、御出身校の東京文理科大学関係者各位、あるい

は御出身地の方々も、ともぐく深い哀しみに、打ち拉がれておられることと存じます。

私ども大学経営者は、先生の御期待に十分に果しえなかつた点を反省し、さらにより良い大学へ発展すべく、満身の努力を傾ける所存であります。謹んで御霊前にお誓いいたします。

前田先生!! どうぞ安らかにお眠りください。

昭和五十九年三月二十九日

(副学長 阿部肇一代読)

弔 辞

在校生代表 森

良 一

前田先生、今日このような形で御別れを述べなければならなくなったことを、大変悲しく思います。中国の御旅行の折、御身体の調子を崩されましたが、最近つとに御元気になられ、つい先日の卒業式の席上でも、大変御元氣な御姿を拝見し、安心しておりました。

私どもが東洋史学の門を叩き、まだ日も浅い頃、先生の「東洋史概説」の御講義に接して、東洋史という学問の深さと偉大さを、十分に知ることができました。

思い出されますが、先生の御講義は、遊牧民の国家の所になられますと、一段と熱が入り、黒板が真白になっておりましたのが、印象深く心に残っております。あるいは漢文講読の時間など、私たちのおぼつかない読み下し文に対し、独自の名調子で御親切に指導してくださいました。その時におっしゃった言葉に、「漢文は外国語であるから常に辞書を引きなさい」とい